

MeeGoアプリの開発に必須の基礎知識

C++ベースのアプリケーション開発環境
Qtを理解しよう

クロスプラットフォームのアプリケーション開発フレームワークQt. Google Earthや、Adobe社のPhotoshop Elementsなどの開発にも使われています。MeeGoはアプリ開発用APIにQtを採用しています。そんなQtの基礎知識を紹介しましょう。 朝木 卓見

MeeGoではアプリケーションの開発用APIにQtを採用しています※1。本稿では、そのQtを解説します。

Qtの歴史

Qtはノルウェーの旧Trolltech社が開発を行っていたC++ベースのクロスプラットフォームのアプリケーション開発フレームワークです(図1)。

WindowsやMac OS X, Linux/X11といったデスクトップ系のプラットフォームはもちろん、X11を利用しない組み込み系のLinuxやWindows CE/Mobileといった組み込み・携帯用のプラットフォームにも同じAPIで対応しています。アプリケーションの移植性が高く、また機能も豊富で、ドキュメント(ただし英語)もそろっていることから、利用者の満足度の高いフレームワークです。

フィンランドのNokia社が2008年にTrolltech社を買収したことによって、Nokia社の携帯電話向けプラットフォームであるSymbian, MaemoへもQtが対応しました。その後、2010年にMaemoとMoblinが合併してできたMeeGoの登場により、MeeGoにも対応するフレームワークとなりました。2011年7月現在の最新版は4.7.3です。Qt 4.8および5.0へ向けて開発が進められています。

Qtは、トリプル・ライセンスのプロダクトです。商用、LGPL, GPLの三つのライセンスで提供されています。各ライセンスで機能は全て同じであるため、利用者はそれぞれの条件に合わせて利用するライセンスを選べます。MeeGoで利用する場合にはLGPL版を利用するケースが多いでしょう。

Qtはどこで使われている？
事例紹介

QtはMeeGoのアプリケーション開発用のAPIですが、MeeGo専用のフレームワークではありません。商用のアプリケーションではGoogle社のGoogle Earth(図2)やGoogle日本語入力、Adobe社のPhotoshop Elements, Autodesk社のMaya 2011などで使われています。

オープンソースの世界では、MeeGoのほかにLinuxのデスクトップ環境であるKDEでの利用が有名です。KDEは最近モバイル方面にも力を入れており、MeeGo上でKDEアプリケーションを動かすようなことも、そのうちできるようになるかもしれません。

上記以外にも、デスクトップから組み込み機器まで、Qtは幅広い分野で利用されています※2。

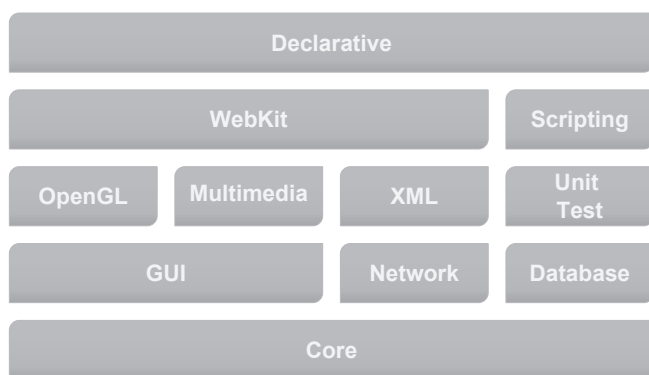


図1 Qtのアーキテクチャ(<http://qt.nokia.com/products-jp/class-library-1>)

※1 <http://apidocs.meego.com>

※2 <http://qt.nokia.com/qt-in-use-jp>

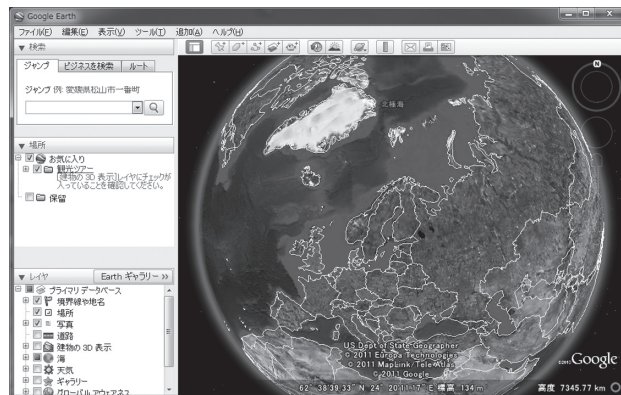


図2 Google Earth